

MCC雑感2006-12

於丸紅本社ビル一階個室コンチェルト（忘年会）

出席 17名

1) 2006年のMCC回顧

- 1月： 初級講座—メールの縦書きに挑戦
- 2月： 初級講座-2—画像
- 3月： 宿題・住所録の整理
田中勇介さん新鋭機購入ジャコバン卒業
WBC日本の優勝をレポート
- 4月： 日高さんのエプソンカレッジ紹介とHDDフォーマット初体験
千鳥が淵桜のパノラマ画像
スパイスーパーの導入
- 5月： 田中弘文さんのフォトストーリー講座
- 6月： 初級講座 ファイルとフォルダー
大塚昭さんの新鋭機購入98の訣別
荒川さんの木曾御岳春酣
FIFA2006年をレポート
- 7月： IE—7ベータ版騒動
小林さんの急性肺炎入院
秋葉ブラの記
- 8月： 大塚昭さんのSMK（スパムメールキラー）紹介
荒川さんの月間MVP
副島さんの多重発信騒動
便利ソフト「縮専」の導入
- 9月： 大塚康さんの炭焼スライドショー
マンダリンオリエンタルでの小林さん全快祝いと米国年金厄落し会
WEB. 2. 0とウィキペディア（冥王星が太陽系惑星から消えた）
- 10月： 田中勇介さんのスペインの思い出フォトストーリー
- 11月： 小島さんのWeb-Mail

橋本大道さん脳梗塞で入院
MLBワールドシリーズをレポート

12月： IE-7の導入
忘年会

2) ウェブ進化論を読んで

梅田望夫の「ウェブ進化論」を読んだことは、既にメールでご報告しました。

この本は実に興味深いことが沢山書かれていて、「へーえ成る程ね」とか、「まさかそんなことが・・・」とか、兎に角惹き込まれる文章が並んでいます、既にこの本を手にとられた方々はこの本が解ったような、よく解らない、それでいながら非常に惹き付けられるコメントに満ちていることを感じて頂けたのではないのでしょうか？

最も私にとって印象的だった点を一つだけご紹介したいと思います。

冒頭ITの世界は「インターネット」「チープ革命」「オープンソース」という三つの大きな潮流が相乗効果を起し、次の10年にそのインパクトから闊地を越える結果、リアル世界では絶対成立しないネット世界の発展が生じると言い切ります。

そして代表例として、IT産業にパラダイムシフトを起す、10年に一度の特別な企業としてのフーグル礼賛が滔々と述べられるのですが、一番衝撃的なのは、世界一の大金持ちとなったマイクロソフトの創始者、ビル・ゲーツが老いた、すなわち世代的限界を露呈したと言い切ることです。

コンピュータの世界でビル・ゲーツは破壊的革新を成し遂げたことは我々が実感を持って体験しています。そして彼が成功したのはそれまで誰にも考えられなかった一つの秘密、革命的な行動によることもよく知っています。

つまり、彼は自分が開発したOS—ウィンドウズを世界中のハードウェアメーカーに誰でも使わせるという決断をしたのですが、これがマイクロソフトに先行していたアップルのマッキントッシュをマイノリティに追い込み尚且つ、世界の90%のパソコンがウィンドウズで動くという仕組みを成就した秘訣だったのです。

1984年に出されたIBMのPC/AT 互換機はDOS/V機として、文字通り

世界を席捲してしまいました。我々もまた偏に、そうです偏にDOS/Vの世界でのみ、IT世界に入ることが出来たのです。

コンピューターが20世紀最大の発明とされ、我々が辛うじて1995年以降にまで生きながらえたお陰で、この恩恵に与れたという次第です。

ところが、2003年以降現在に至るここ数年で、IT世界はまたまた革命的革新に巻き込まれた、そして、マイクロソフトはもはやこの言うなれば第二の革命ではグーグルに差を付けられているのだと著者は云うのです。

その証拠として、マイクロソフトは2004年1月、未公開企業だったグーグルを1兆円で買収しようとして、断られたのですが、その8ヶ月後の公開時には3兆円の値段がつき、更に14ヶ月後には時価総額が10兆円を越えたのです。

片やマイクロソフトはここ数年30兆円のあたりを横這いしているそうですが、それはそれとして物凄い数字だとしても、グーグルは早くもその優位性を誇示しています。

グーグルのCEOマイク・シュミットは2005年10月26日に日経新聞のインタビューに答えて、「彼ら（マイクロソフトのことです）の姿はまだ見えないが、が追って来ていることは知っている。だから技術革新のペースを落とさず人材を確保している」と云っているのです。

マイクロソフトはこちら側でグーグルはあちら側に居るのだという宣言です。

グーグルの秘密は検索エンジン×自動秩序形成システムであると云います。

つまりグーグルでは30万台のパソコンが24時間365日フル稼働して情報処理をするので、少なくともテキスト情報では完全にブレークスルーしてヤフーを凌駕していると云います。

この点は私も体感するところで、随分前から私のインターネットの検索エンジンはヤフーからグーグルに代っています。

これは理屈以前に、自然なユーザーの体験から来たもので、使い勝手のよさが私を変化させたと言うことですが、さて、マルチメディアの土俵の上での競争でも、グーグルが勝つかどうか、これはまだ解りません。

我々ウィンドウズ世代はパソコンの第一革命の時は、未だ生れていませんでしたから、（それ以前にコンピューターというものを触ったことが無いという意味）マイクロソフトの巻き起こした革命に何等の実感もありませんでした。

つまり我々は革命の後にIT世界に生まれて、その果実を味わっただけでした。

今度はどうでしょうか？

我々は鳥肌が立つような感激を味わいつつ、この IT 世界の第二革命に出会うのでしょうか？

3) 年末の空騒ぎ—メモリー増設

話の発端は矢野さんの VISTA 紹介であった。

来年 1 月末に日本でも発売開始とされている、次期 OS、Windows Vista を待望するや久しいが、これを搭載するに必要な PC の仕様は、下記のようになっている。

 Windows Vista Home Premium、Business、Ultimate の推奨システム要件 ^{*2}	
CPU	1GHz, 32bit (x86) または 64 bit (x64) プロセッサ ^{*1}
システム メモリ	1GB 以上
HDD	40 GB 以上のハードディスクかつ 15 GB 以上の空き容量
グラフィック	Windows Aero 対応 ^{*3} かつ 128 MB 以上のグラフィック メモリ
その他	内蔵または外付けの DVD ドライブ
	インターネット アクセス
	オーディオ出力

 Windows Vista Home Basic の推奨システム要件	
CPU	800 MHz 以上の 32 bit (x86) または 64 bit (x64) プロセッサ ^{*1}
システム メモリ	512 MB 以上
HDD	20 GB 以上のハードディスクかつ 15GB 以上の空き容量
グラフィック	DirectX® 9 対応かつ 32 MB 以上のグラフィック メモリ
その他	内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブ
	インターネット アクセス
	オーディオ出力

ここで肝要なのは、現在の MCC メンバーにとっては、メモリーだけが不足しているということであった。因みに殆んどの XP 保有者は 512MB までで、1GB 以上は石田さんのみなのである。

私が立ち上がって不用意に叫んだ一言！

「皆さん、パソコン拡張計画の中で最も簡単なのがメモリー増設なのですよ」と云うのは、とんだ早とちりの大恥の元となってしまったのだ。

DELL テクニカル・サポートは次のように解説する。

2002年後半に DELL Dimension8200 が販売されていた当時は、メモリーの規格としては、RD-RAM が主力であった。その期間は精々1年間で、その後 DDR-SDRAM から DDR2-SDRAM という変遷があって、現在では RD-RAM は殆んど使われず、従って工場、販売店を問わず在庫は皆無でしょう。

メモリーのスロットには現在 256MB×2 が入って居り、後二つのスペースが空いているのだが、もはや増設すべきメモリーを市場で求めることは不可能ということです。

後は中古かバルク（ブランド外の商品、つまり性能保証は無い）で探すしかないらしい。

私のパソコン歴は以下の通り、一号機、二号機共にメモリーの増設をやっているのだが、今回ばかりはこの経験は活かさないということになった次第である。

	FMV	DELL R400	DELL 8200
	96年3月	99年2月	02年10月
CPU	Pentium	Pentium-Ⅱ	Pentium-Ⅳ
MhZ	133	400	2,500
RAM	16(+32)=48	64+64=128	512
HDD	1(+2)=3	12.8+8	80+120
OS	Win-95	Win-98	Win-XP

さて愈々新しい OS - VISTA を迎えて、2007年には待望の4号機を購入する予定であるが、私のパソコン歴も11年目を迎える！??

以上/